

第1回日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議 議事概要

日時：令和7年10月31日（金） 14:00～15:40
場所：宮崎県庁5号館2階521号室

日南線油津駅から志布志駅までの区間における現状や課題を共有し、将来のあり方を検討する「日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議」について、第1回検討会議を開催したところであり、その議事概要は以下のとおり。

1 開会

2 挨拶【会長：宮崎県総合政策部総合交通課長】

- ・日南線は地域住民の移動や観光振興を支える重要な社会基盤であるが、人口減少やモータリゼーションの進展など社会環境が大きく変化し、日南線を取り巻く環境は厳しい状況。
- ・昨年11月のJR九州からの呼びかけ以降、関係機関において協議した結果、各種法律の趣旨を踏まえ、沿線地域における現状や課題を共有し、将来のあり方を検討するため本会議を設置することとなった。
- ・沿線住民の日常生活・社会生活の維持向上につながる将来的な移動手段の確保に向け、丁寧かつ建設的に議論を進めたい。

3 報告・確認事項

(1) 日南線（油津・志布志間）の将来を考える会議の規約、事務局規程、財務規程について

事務局から資料1について説明。

- ・委員より、関係機関における負担金等については、事業内容に応じて都度協議することについて確認がなされ、了承された。

4 議事

(1) 日南線（油津・志布志間）の現状について

九州旅客鉄道株式会社から資料2により、人口動態や社会情勢の変化などについて説明。

- ・平均通過人員は、会社発足当初の1987年度から2023年度には7割以上減少している。
- ・平均通過人員の構成として、通学定期による利用が7割を占めており、通勤定期利用が非常に少ない。
- ・自家用車の保有率の上昇や高規格道路の整備が進むなど社会情勢が変化しており、利用者が減少しているものと推測される。
- ・利用者のメインとなっている15～19歳の人口推移について、10年後で20%、20年後で40%の減少が見込まれている。

(2) 沿線地域における取組状況等について

沿線市から資料3により、各市計画における日南線の位置づけやこれまでの利用促進の取組について説明。

5 意見交換

議事の説明を受け、委員による意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

【九州旅客鉄道株式会社】

- ・大量輸送としての鉄道特性を活かせていない線区については、将来のあり方を考えていきたい。
- ・これまで沿線市の皆様と連携し、利用促進に取り組んできたが、利用者の増加には至っていない。
- ・現状及びデータから見ると将来の利用者の更なる減少が懸念され、現状のままでは当社単独で運営し続けることは厳しい状況である。
- ・一方で、地域の足として、地域公共交通は非常に大事であり、持続可能性も踏まえた上で、地域や利用者にとってどのような地域公共交通がふさわしいのか未来志向で議論していきたい。

【沿線市】

- ・メインの利用者である学生の移動手段をどうすべきかという点を中心に今後のあり方を検討するべき。
- ・鉄道はインバウンドも含めた観光利用のニーズもあるため、観光利用を視野に入れた利用促進も考えられるのではないか。
- ・近年、特に過疎地域において、鉄道に限らず、公共交通の時刻に合わせて行動する方が減少してきているように感じており、ドア・ツー・ドアでの移動が望まれているのではないか。意識なども含めて住民へのアンケートなどすべきではないか。

【有識者】

- ・高齢者など、駅やバス停まで歩きで移動できない高齢者などもあり、利用者の絞り込みは行う必要がある。
- ・調査や事業の対象者を絞り込むに当たっては、人口の構造変化を丁寧に見る必要がある。
- ・鉄道でしか提供できないことは何かを考えるべきであり、利用実態の調査などをを行う必要があると考える。

意見交換後、会長より、以下のとおりまとめがあり、すべての委員が同意。

- ・この会議においては、日南線（油津・志布志間）において、将来にわたってどのような地域公共交通が望ましいのかという点について議論することで共通認識が得られた。
- ・次回の会議までにアンケートなどによりデータの収集を行うものとし、その方法等については、今後、事務局等で検討し、委員に諮った上で実施する。
- ・第2回以降においても、マスコミの取材については冒頭のみの頭撮りとし、議事終了後、会長より記者ブリーフィングを行う。